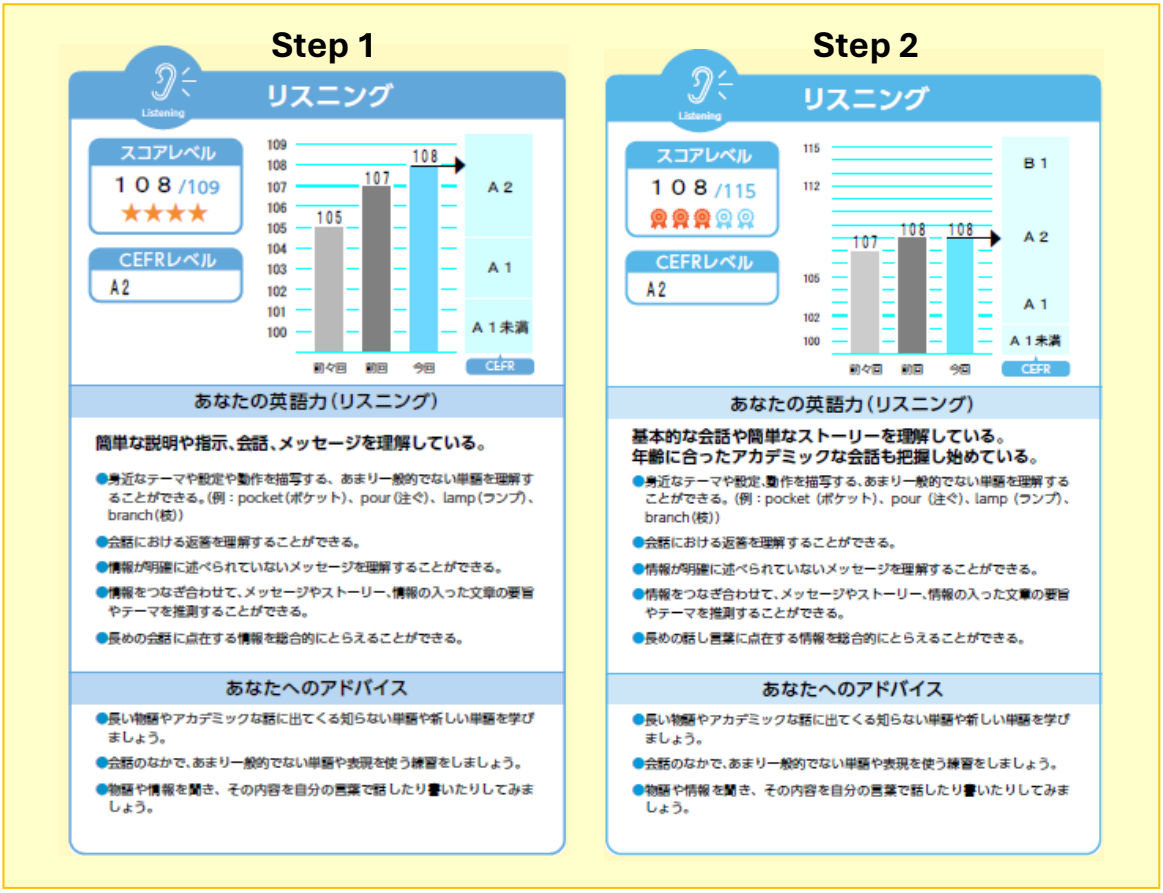
中学生及び小学校、中学校の保護者の皆様

TOEFL Primary®スコアと学校の授業、家庭学習にどう取り組むか
―リスニング編―

大阪教育大学　英語教育部門　准教授
ETS公認TOEFL Primary® / TOEFL Junior®トレーナー
一般社団法人 国際教育英語試験協会 理事
篠崎　文哉

TOEFL Primary® Step 1 & Step 2 スコアレポート リスニングセクション



© 2017 Kumon Institute of Education Co., Ltd. (https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/primary/result/)

GEET 一般社団法人 国際教育英語試験協会 Global Educational English Testing

目次

1. はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.2
2. 基本的な学習の心得と学習方法・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
    2.1. 授業中のリスニングの機会・・・・・・・・・・・・・・・ p.3
    2.2. 検定教科書・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.4
    2.3. 音読の基本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.6
    2.4. 家庭学習のすすめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.7
3. スコア別学習方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9
    3.1. YouGlishの活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.9
    3.2. VoiceTubeの活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.11
4. おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p.13

著者紹介

篠崎 文哉 (Fumiya Shinozaki)

大阪教育大学 多文化教育系教員養成課程英語教育部門・准教授

ハワイ大学マノア校卒業 (Second Language Studies，学士)、大阪教育大学大学院教育学研究科修了 (教育学，修士)、関西学院大学大学院教育学研究科修了 (教育学，博士)。

大阪教育大学附属天王寺中学校教諭を経て、現職。

専門領域は、英語教育学。近著に、「Integrating face-to-face instruction and asynchronous communication to foster community of inquiry in English learning」（Language Teaching Research）や「Social presence and other individual differences in asynchronous English communication」(International Journal of Applied Linguistics) などがある。

中学校英語教科書『NEW CROWN English Series』(三省堂) 編集協力委員。これまでの研究業績やその他の活動については、https://researchmap.jp/shinozaki.fを参照。

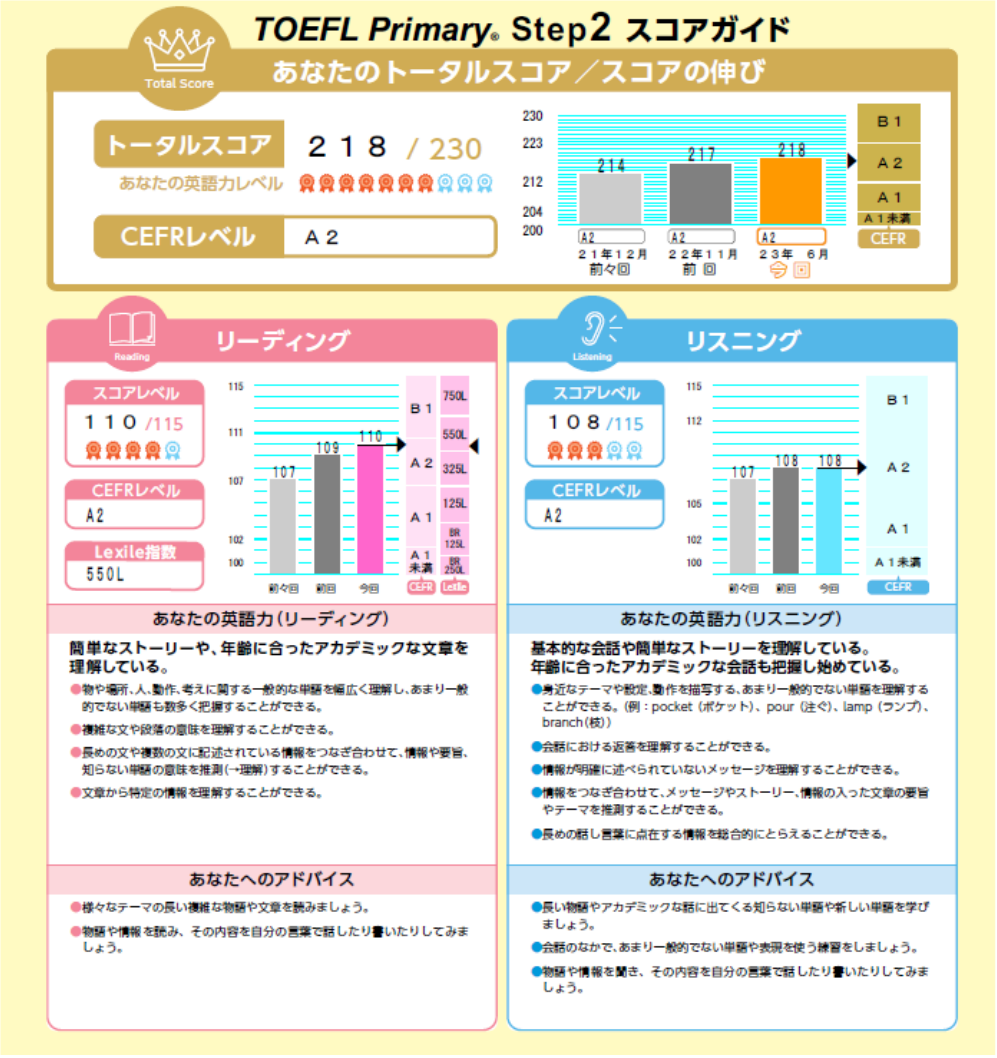
1. はじめに

学校で年1、２回程度、TOEFL Primary®を受験する学校が、国立大学附属校や私立校を中心に増えてきています。各校や個人で英語を実際に使う力を測るTOEFL Primary®をうまく活用しているかと思います。しかし、もしかすると中学生のみなさんの中には、「なんとなく」受験し、スコアレポートが返却されたあとも「何事もなかったかのように」過ごしてしまっている人がいるかもしれません。それは非常にもったいないことです。

とはいえ、あまり小難しく考える必要はありません。学習初期段階からTOEFL Primary®を繰り返し受験することで、これまでの学習の積み重ねが見えやすくなりますので、「少しばかり」考えて、次への学習に生かす、それだけ意識しておくと良いと思います。

では何を考えるのかと言うと、普段学校で受けている英語の授業とTOEFL Primary®のつながりです。もっと具体的には、「学校の授業や家庭学習では、何をすればよいのか？」ということです。学校で学ぶ英語もTOEFL Primary®も、実際の世界で使われる英語と何ら乖離していません。

本稿では、主に中学校の授業を想定し、リスニングに焦点を当てて考えます。前半では、スコアによらず、一般的な学習者に身につけてほしいリスニング学習の心得と継続的に行ってほしい学習方法について説明します。後半では、スコアレポート返却後、各自のスコアに応じた具体的な練習方法を示します。



2. 授業中のリスニングの機会

2.1. 授業中のリスニングの機会

ときどき「学校であれだけ勉強したのに英語が使えるようにならない」と話す人を見かけることがあります。現在では小学校でも英語の授業があり、比較的多くの英語学習の時間を学校で確保しています。しかしながら、おそらく一般的に想像されるような英語使用者になるためには、それらの時間をもってしても不足します。ましてや、45分間や50分間の授業に常に集中して学習に取り組むとはいうのは、なかなか難しいことです。だからこそ、そのことを自覚した上で、少しでも英語のインプット量を確保する必要があるのです。

学校の授業では、様々なリスニングの機会があります。そのうちの一つが、「先生やクラスメートが話す英語を聞く機会」です。授業では、先生は意図的に英語と日本語の使用を使い分けています。授業の内容や目的によって、ほとんどが英語でなされるときもあれば、ほとんどが日本語でなされるときもあるでしょう。

例えば、授業の導入でその時間の中心となる話題について英語で質問をされるときがあります。導入で話される内容をしっかりと聞いて理解することで、その後の展開についていきやすくなります。これはTOEFL Primary®におけるリスニングにも共通しています。何らかの話を聞くとき、まず場面や状況を把握することが重要となります。そういった何の話題か、のように全体像をつかもうとする聞き方が大切です。先生が導入で話す英語を丁寧に聞き、何の話題についてこれから学ぶのかの把握に努めましょう。

他にも、TOEFL Primary®では先生の指示が設問になっていることがあります。先生が英語で行う指示の中には、定型的なものとそうでないものがあります。毎回のように頻繁になされる指示については、みなさんも何度も聞いてほとんど意識することなく理解できているものもあるかもしれません。一方、新しく行う活動などにおいては、初めて聞くような指示が入っているかもしれません。そういった場面も、インプットを得られるよい機会となります。

他方、学習活動の際にクラスメートが英語を話す機会もあるかと思います。まずペアワークはどうでしょうか。ペアワークは、両者が協力しないと成立しません。自分が発した言葉が相手へのインプットとなります。逆に、何らかの理由により相手が英語を話そうとしないと、自分はインプットを受けられません。冒頭でも述べたように、限られた時間の中で多くのインプットを受けようと思うと、こういった生徒同士の活動においてもしっかり取り組まないと時間がもったいないことになります。

また、全体の場でクラスメートが話している場面で、その人の英語を聞こうとしていますか。自分は当てられなかったので「良かった。ホッ。」と安心していませんか。常に集中することは難しいかもしれませんが、こういった日常的な積み重ねがリスニング力の強化につながるのです。授業を受けているだけではインプットは不足することに鑑みれば、1秒でも多く英語を聞こうとする姿勢が大切です。

2.2.検定教科書

授業では、他にも様々な学習活動を行っています。そういった学習活動を行う際に最も日常的に使われる教材は、検定教科書だと思います。ここでは、教科書を用いた授業を受け、しっかりと取り組むことで英語を実際に使う力を測定するTOEFL Primary®のスコアにもつながるという視点で説明します。学校や自治体によって採択される検定教科書は異なりますが、ここでは三省堂のウェブサイトで公開されている令和7年度版NEW CROWNの情報を例にどのようにリスニング活動に取り組めばよいか考えます(ただし、なるべく一般的な部分を取り上げます)。

現在の学習指導要領のもとに作られる検定教科書では、小学校と中学校との接続が以前よりも意識されています。中学1年生用の教科書の冒頭には、そのことが反映された活動が組み込まれています。小学校では3年生から始まる外国語活動の段階からリスニング活動を行ってきており、4年間積み重ねてきたことが中学1年生になってもそのまま引き継がれることが想定されています。例えば、登場人物が行う自己紹介や教師と生徒とのやり取りなどを聞く活動がありますが、TOEFL Primary®でも取り上げられるような日常的な話題が多く見られます。つまり、このような日常的な話題でのリスニングは、小学校で受ける授業から継続して中学校でも扱われるため、普段の授業に適切に取り組めば、ある程度身につけることができ、TOEFL Primary®にも対応できるということです。

この小中接続の部分以降は、大雑把に言って、語彙や文法に関わる教材、4技能5領域(聞くこと、読むこと、話すこと[発表]、話すこと[やり取り]、書くこと)の力を伸ばすための活動が含まれ、それぞれの単元が何らかの場面や状況などでまとまっています。そして、多くの場合、単元末には大きめの活動が設定されています。本教科書では、単元全体がストーリーとなっており、各Partでも場面をつかみやすいようにアニメーションなどが設けられています。先生が授業の導入を行うのと同じように、教科書としても場面の導入が用意されています。アニメーションがリスニングの補助となり、内容理解をするみなさんの支援をします。

ところで、先生が英語で行う導入の直後に、そのアニメーションが電子黒板等で再生されることが多いかもしれませんが、再生する直前に先生がみなさんに英語で何らかの質問をすることがあります。それは例えば、登場人物や場面、話題に関することなどです。本教科書では、そのアニメーションに関連したリスニング問題が用意されている部分もあります。

アニメーションを見て、音声を聞き取りながらそれらの答えを探すのですが、リスニングのポイントを絞ることで、目的意識が高まり、集中して聞けるようになります。TOEFL Primary®でもあらかじめ問いが示されているものは、先に問いを確認し、欲しい情報に絞って聞き取ります。一見、問題のためのリスニングのように見えますが、私たちは日常生活の中でも頭の中で問いが浮かび、欲しい情報を得ようとすることがあります(あるイベントのCMを見て、いつ、どこで行われるの？など)。授業においてもTOEFL Primary®においても、実践的な力を伸ばしたり、確認したりする機会となって

います。

また、教科書には、主にそのページで学ぶ単語や文法に関連したリスニング練習問題も含まれています。リスニングはリスニングだけで独立しているのではなく、単語や文法学習とも関連しています。それらのインプットの機会でもあるということです。

リスニングが苦手だと感じる人はいるかと思いますが、当然ながら知らない単語が多いと十分に聞き取れず、意味を理解できません。知らない単語がほんの少しだけであれば、文脈から推測するということもできるかもしれませんし、それはそれで伸ばす必要のある力なのですが、知らない単語が多いとどうしても「何となく」理解できるかどうかとなってしまいます。では、教科書の単語はどのように学習すればよいでしょうか。リスニングの観点からは、やはり「音」を大切にしてほしいと思います。単語の覚え方、身につけ方には、みなさんの得意な方法、向いている方法があるかもしれませんが、それらの方法によらず、何らかのモデル音声を聞いて、発音を真似するという練習は抜かさないようにしてほしいと思います。モデル音声は、一般的には先生の発音かCD(またはデジタル教科書)の音声かと思います。それらを聞いて、意識的に練習してください。リスニングなのに、なぜ単語を学ぶときに発音練習が大切かというと、端的には、読み方を知らない単語を聞いたとき、その単語だと認識できない、もしくは認識するのに時間がかかるということが発生するからです。文字を見たらその単語だとわかるのに、聞いたらわからないということが多い人は、このような音声的な練習が不足しているかもしれません(音声的な練習については、次項で扱います)。授業の中で、単語を練習する時間が設けられていたら、意味はもちろんのこと、発音にもしっかりと注目して学習してください。例えば、単語を書く練習があるとき、ブツブツ言いながら書いたり、少なくとも頭の中で(適当にではなく)意識的に発音してみたりしてほしいと思います。

また、単元の最後には複数の技能を用いる大きな活動が用意されています。実生活では、各技能が独立していることの方が稀で、会話であれば「聞く」と「話す」の両方を行います。聞いたことを別の誰かに話したり、聞いたことをメモしたりすることもあります。TOEFL Primary ®Speakingでも聞いてから話すといったものが含まれています。このような技能統合型の言語活動に着実に取り組んでいくことで、より自然な文脈で英語を学ぶことができます。学校で学んだことがどの程度身についているのかを確認するのが、定期テストやパフォーマンステストなど学校で行われるテストです。それに加え、一般的な英語力としてどの程度身についているのかを確認するためにTOEFL Primary®などの熟達度テストを受けて、スコアレポートを活用することをおすすめします。

2.3.音読の基本

リスニング力を高める練習方法は様々あります。そのひとつが音読です。音読は授業の中でよく行われる練習だと思います。ただ何の考えもなしに闇雲に音読するのも無意味とは言いませんが、より効果的に音読活動に参加するための特に重要なポイントを3つに絞って説明します。

ポイント①

まず、音読するテキストの意味がわかっているか、です。その授業で初めて触れた英文を用いた音読は、一般的に、聞いたり、読んだりして内容を把握したあとに行われます。聞いたり、読んだりするときには、先生から問いが出されたり、プリントに書かれている問題に答えたりすることで内容理解に努めることが多いと思います。音読の質を高めるには、この内容理解の時間が非常に重要なのです。可能な限り、一文一文丁寧に解釈していきます。各文に含まれている単語は、その文においてはどういう意味なのかや、どういう文構造になっているのかなどの理解も大切です。

ポイント②

次に、個々の単語の発音だけでなく、文全体のリズムやストレス、イントネーション(こういった言葉のメロディーのようなものをプロソディーと言います)にも注目した練習となっているか、です。リスニング力強化という視点からは、この部分が極めて重要です。日本語と英語とでは、プロソディーが大きく異なるため、英語のプロソディーに慣れていないと、文を聞き取って、意味を理解することが困難になると考えられます。そのため、単語学習のところでも少し触れましたが、授業においては、先生やCD(またはデジタル教科書)の音声をしっかり聞いて、丁寧に真似することが大切です。特に、音と音のつながりに注目してください。英語では、たびたび単語と単語がくっついて発音されます。例えば、Take it easy は/teɪk ɪt 'i:zi/(無理やりカタカナで書くとテイキティーズィーやテイキリィーズィー)のように発音されますが、テイクイットイージーだと思っていると、何か別の単語に聞こえてしまい、正しく認識できません。世界には様々な英語があると言われますが、発音も様々です。余裕がある人は、多種多様な英語に触れてみてください。

ポイント③

最後に、チャンク(かたまり)を意識しているか、です。例えば、It was a beautiful day to go for a walk in the park. という文は、It was / a beautiful day / to go for a walk / in the park. のようなチャンクに分けることができます(分け方は人によって異なる場合があります)。チャンクは、聞いたり読んだりして文を理解するときだけではなく、話したり書いたりするときにも極めて重要となりますので、意識的に練習してください。これは単語を覚える際にも大切で、「英単語」➡「日本語訳」、「日本語訳」➡「英単語」という単語単位での練習に留まらず、可能な限りチャンクや文での練習も行ってください。

2.4.家庭学習のすすめ

音読は、授業時間の制約上、練習回数が不足しがちです。そのため、授業外でいかに自分で繰り返し行えるかが鍵となってきます。紙の教科書さえあれば、どこでも音読による練習はできますが、ここでは練習の幅を広げるために主にデジタル教科書を用いたものを紹介します。

授業外で音読をするときは、基本的には授業ですでに読んだことのあるテキストを用いましょう。つまり、授業で学んだことを授業外で強化するといった流れです。音読の前に、各文の意味や文構造などが理解できるか確認しましょう。自分で行う音読について、以下に練習の流れの一例を示します。

基本セット

①発音とプロソディーの再確認
②オーバーラッピング
③録音と確認

まずは、音声を再生し、発音とプロソディーを再確認します。音声を聞きながら、テキストを一単語一単語目で追っていってください。もし音声が速すぎると感じたら、0.75倍速で再生してください(速度調整の機能がだいたいついているかと思います)。ここをおろそかにして我流でやってしまうと、音読で得られる効果が薄れるかもしれませんので、丁寧に確認してください。授業では、先生はポイントを絞って説明をしますので、可能であればそれ以外のところにも注目して聞き、真似をする準備をしてください。

例えば、区切った方がよさそうな場所(チャンクなど)には斜線を入れたり、単語と単語の音がつながっているところに自分がわかるようにマークを入れたりします。必要に応じて、単語や文の強弱と抑揚のマークも入れましょう。これは紙の教科書に書いてもよいですし、デジタル教科書の筆記機能で書いてもよいです。

次に、もう一度再生し、音声に重ねて読み上げます(オーバーラッピング)。これも同じく、通常の速度が速すぎる場合は、適宜調整してください。しかし、何度か練習を行い、通常の速度でついていけることを目標にしましょう。オーバーラッピングでは、速度や発音、プロソディーが手本としている音声にどれだけ近づけるかというところが重要になる一方で、言葉の「意味」への注意がおろそかになってしまう恐れがあります。何度か行い慣れたころでもよいので、自分で文を作って発しているかのように練習してみてください。

最後に、自力でどれだけ読めているかの確認をするために、録音をしてください。録音はデジタル教科書の機能でもスマートフォンのアプリでも構いませんが、手軽に中長期的に記録を残していくという意味では後者の方が簡単かもしれません。いずれにしても、その日の練習としては、録音したものと手本として聞いていた音声とを聞き比べて、どれだけ音声として近いかを確認してください。そして、不十分だと思われる箇所について徹底的に練習し、再度録音して比べてください。たいていの人は、この録音をして聞き比べるというところを面倒くさがってやりません。歌の練習にも同じことが言えますが、自分では上手く歌えているつもりでも、いざ録音や録画をして聞いてみると自分では気付かなかった

ところで音が少し外れていたということがよくわかります(クラスで行う合唱の練習などでもやってみてください)。

練習には様々な方法がありますが、まずは継続的に行えるかどうかです。効果が高いと思われる練習も続けなければ、その効果を得られませんので、続けることができないくらいなら、この基本セットを中心になるべく毎日行ってください。毎日が難しい場合は2日や3日に1セットでも構いませんので、まずは続けてください。

「続けられるが、基本セットでは効果が薄いところまで来た」という人は以下の発展セットを継続的にやってみてください。

発展セット

①発音とプロソディーの再確認
②オーバーラッピング
③シャドーイング
④リピーティング
⑤クローズリーディング
⑥暗唱
⑦録音と確認

発音とプロソディーの確認や、自分が発話しているように行うといったことは前提となります。シャドーイングでは、テキストを見ずに音声だけを聞いて、なるべく遅れずに聞こえた通り音を発していきます。負荷が高い練習ですので、適宜速度を調整してください。0.5倍速から始めてもよいかもしれません。

次にリピーティングは、一文などを聞いたタイミングで、その文を発します。シャドーイングは音声を流しっぱなしにして、常に聞きながら音を発していきますが、リピーティングはまず聞いて、ポーズを置き、その間に聞いたことを発します。文が長い場合は、短く区切っても構いません。また、シャドーイングとリピーティングのどちらを先に行うかは、用いるテキストにもよりますので、やりやすいと思う方からやってみてください。

クローズリーディングは、デジタル教科書にいくつかの単語を隠してくれる機能があります。それを用いて、少しずつ本文を暗唱していきます。文すべてを隠して日本語訳だけを表示し、それを頼りに英語を発するという練習もできます。繰り返し練習して、暗唱してください。

基本セットと同様に、最後には録音してください。ただし、発展セットでは暗唱した上で行いますので、テキストは見ません。

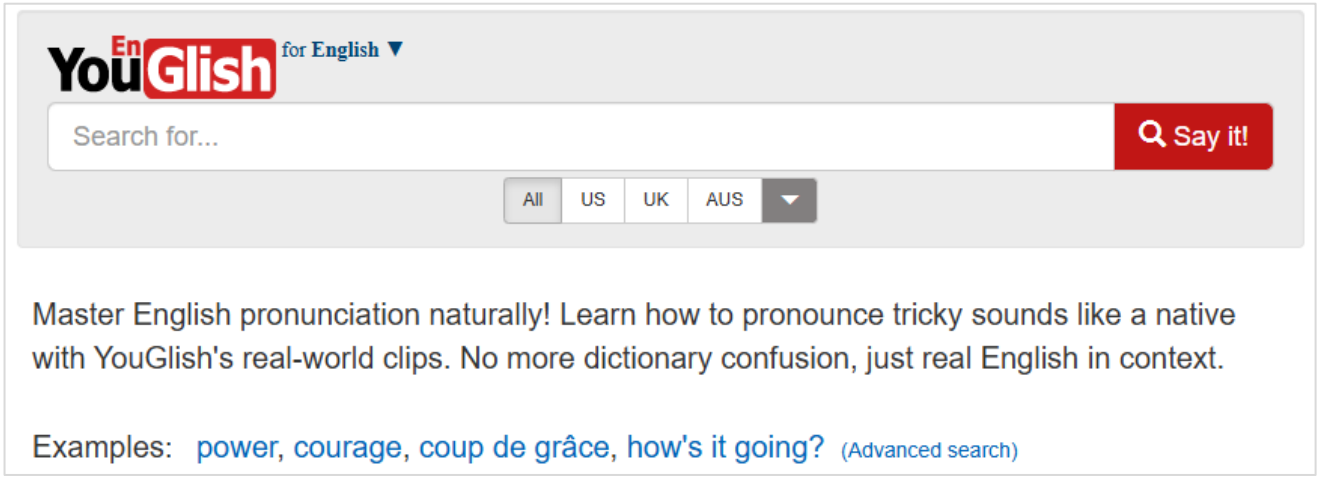
音読はリスニングだけでなく、様々な側面に良い効果があると考えられています。また、他にも様々な音読や音声の練習があります。ただ、こういった練習は効果がすぐに目に見えてあらわれるわけではないので、「本当に意味あるの？」と思ってしまい、続きません。だからこそ、ときどき録音したものを聞き返して、現在の自分と比べてみましょう。

3. スコア別学習方法

ここまで、検定教科書を用いてできる音読を中心とした音声練習について説明しました。継続的に練習を行えば、自身の英語力の底上げにつながるでしょう。ここからは、大きく3段階のレベル(TOEFL Primary ®のリスニングスコアが100~106点【レベル1】、107~115点【レベル2】、それ以上【レベル3】)に分けて、無料で利用できるウェブアプリを用いた練習方法の具体例を紹介します。レベル3は、TOEFL Primary®ですでに満点を達成（※成績優秀者について、p.14 参照）し、TOEFL Junior®やTOEFL iBT®へのステップアップに備えたい人向けです。）

ETS公認 TOEFL Primary® Step 2 リスニングセクション(115点満点)パフォーマンス解説			※レベル3
CEFR	スコア	あなたの英語力(ディスクリプタより)	
B1	115	テスト内容を大変良く理解し運用できている。 • 身近なテーマや設定、動作を描写する、使用頻度の低い単語を理解することができる。 • 知らない単語や一部の慣用表現を含むメッセージやストーリーを理解することができる。 • ストーリーやアカデミックな会話に含まれる情報をしっかりつなぎ合わせて、意味を推測することができる。 • 長めの文章から特定の情報を理解することができる。	レベル2
	114		
	113		
B1	112	会話や簡単なストーリー、年齢に合ったアカデミックな会話を理解している。 • 身近なテーマや設定、動作を描写する、使用頻度の低い単語を理解することができる。 • 知らない単語や一部の慣用表現を含むメッセージやストーリーを理解することができる。 • ストーリーやアカデミックな会話に含まれる情報をしっかりつなぎ合わせて、意味を推測することができる。 • 長めの文章から特定の情報を理解することができる。	
	111		
	110		
A2	109	基本的な会話や簡単なストーリーを理解している。年齢に合ったアカデミックな会話も把握し始めている。 • 身近なテーマや設定、動作を描写する、あまり一般的でない単語を理解することができる。（例：pocket、pot、pour（注ぐ）、lamp（ランプ）、branch（枝）など） • 会話における返答を理解することができる。 • 情報が明確に述べられていないメッセージを理解することができる。 • 情報をつなぎ合わせて、メッセージやストーリー、情報の入った文章の要旨やテーマを推測することができる。 • 長めの話し言葉に点在する情報を総合的にとらえることができる。	
	108		
	107		
A1	106	基本的な会話やメッセージを理解し、ストーリーや情報の入った文章を把握し始めている。 • 日常会話で使用される一般的な表現を理解することができる。 • 聞き覚えのある単語を使用し、重要な単語を繰り返し述べた、簡単な指示を理解することができる。 • 重要な情報を繰り返し述べたメッセージの目的を理解することができる。 • 重要な情報を明確にかつ繰り返し述べた簡単なストーリーの要理を理解することができる。	レベル1
	105		
	104		
Below A1	100	話し言葉の物、場所、人など、少数の聞き覚えのある単語を認識し始めている。 • 視覚的情報が与えられれば、聞き覚えのある単語を理解することができる。	

3.1.YouGlishの活用



1つ目は、YouGlish (https://youglish.com/) です。英語の発音や使い方を学ぶのに役立つサイトです。このサイトでは、YouTubeの膨大な動画データベースを利用して、特定の単語やフレーズが実際の会話でどのように発音されているかを簡単に検索できます。検索した単語やフレーズを含む動画のクリップを表示し、その前後の文脈を確認できます。これにより、実際の使われ方や発音を自然に学ぶことができます。また、アメリカ英語、イギリス英語、オーストラリア英語など、特定のアクセントでの発音を絞り込むことができます。単語やフレーズなどを検索すると、動画が出てきます。動画の字幕も表示されるため、聞き取るだけでなく、テキストを目で確認しながら学習できます。同じ単語でも、異なる人々による発音の違いを学ぶことができます。これにより、リスニングスキルが向上します。

【レベル1】(100~106点)

日常生活の基本表現として、例えば以下のような単語やフレーズを検索します。

●dog, school, run, play, eat

●What' s your name?

●I like... (例：I like apples.)

●Where is the...?

(例：Where is the library?)

このような単語や短いフレーズを検索し、聞こえた音をそのまま真似します。リズムやイントネーションも注意して真似してください。例えば、“I like cats.” を検索し、動画の音声を繰り返し聞きながら発音練習してください。また、発音をAllの設定からUSやUKなどに変え、ある程度発音のバラつきを抑えて練習することも考えられます。再生スピードもnormalの設定から0.5~0.7倍速などに変更してください(実際に使われている英語のため、normalでもかなり速いです)。

【レベル2】(107~115点)

例えば以下のような単語やフレーズを検索してみてください。

質問や応答の表現

●How do you get to...?

(例：How do you get to the park?)

●Can you help me?

●What do you like to do?

動作や時間を表す表現

●I usually... (例：I usually wake up at 7.)

●She is going to...

(例：She is going to the store.)

より長いフレーズや文単位を意識したリスニング練習を行います。例えば、“What do you like to do?”を検索し、会話全体の流れを理解しようとします。最初は字幕を見ずに学習し、次に字幕を見て確認しながら聞き取ります。

また、様々なアクセントやスピードに慣れるために、発音をAllの設定にし、再生スピードも0.8倍速などにするとよいでしょう。

さらに、単語やフレーズに続く単語等を聞き取る練習もできます。例えば、“She is going to the...”と検索し、theの次に来る単語が何かを聞き取ります。フレーズ自体の使われ方を学ぶこともできます。

【レベル3 】(115点以上※成績優秀者について、p.14参照。)

徐々に語彙レベルを高めましょう。検索する単語やフレーズとして、以下のようなものが考えられます。

物語や説明文に関連する表現

●First, they went to...

●The reason is...

●In the end...

具体的な状況描写や感情表現

●She felt happy because...

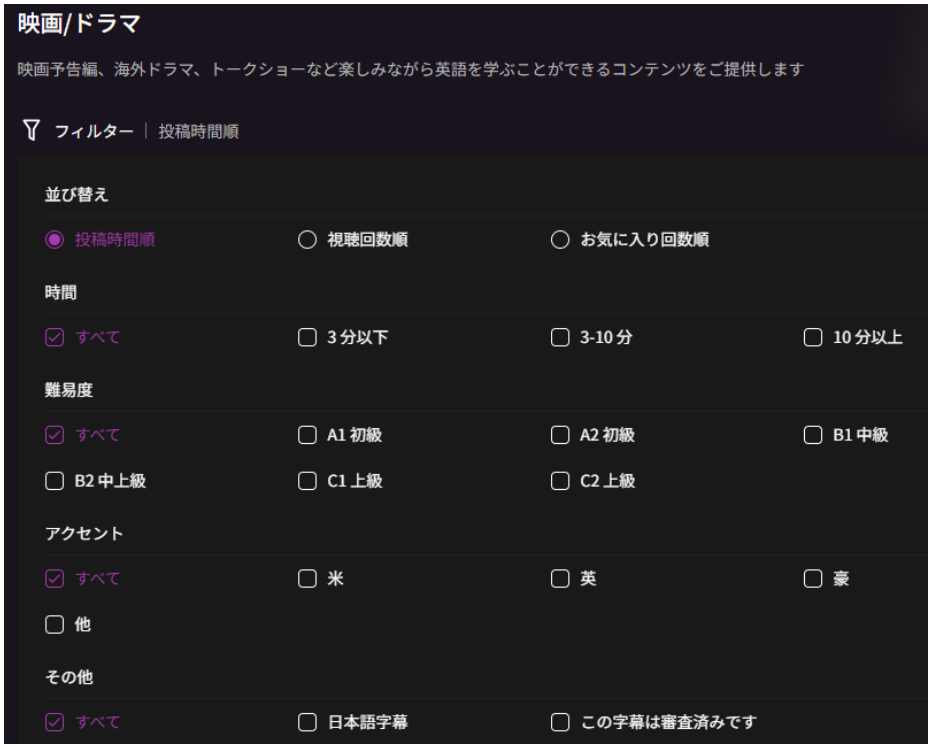
●They decided to...

文脈を利用した練習を取り入れましょう。例えば、“The reason is...”を検索し、理由を説明する動画を見て、説明の流れをリスニングで追えるようにします。

また、聞いた内容を要約する練習も考えられます。動画を見た後で、聞いた内容を簡単な英語でまとめましょう。各単語やフレーズ、文が使われる文脈を利用した練習は、一般的な教材では不足しますが、YouGlishを用いれば、多数の例を用いた実践的な練習が可能です。

3.2.VoiceTubeの活用

VoiceTube (https://jp.voicetube.com/)は、英語学習者がリスニング力を向上させるための動画プラットフォームです。YouTubeのように多様な動画が提供される一方で、学習者向けの特化した機能が充実しています。映画やドラマ、音楽、アニメ、ニュースなど、様々な動画があります。VoiceTubeでは、字幕機能があり、英語字幕と日本語字幕を切り替えながら学習ができます。単語検索と辞書連携があり、動画内のわからない単語をクリックして即座に意味を確認できます。再生速度調整機能もあり、スロー再生にして、速い話し方でも丁寧にリスニングできます。さらに、ログインすれば、録音機能を使用でき、聞いた音声を録音して自分の発音と比較できます(基本的には課金が必要な有料の機能ですが、無料のままで使えるときがあります)。



【レベル1】(100~106点)

音を学ぶために、動画内で出てきた単語を辞書機能で確認し、発音を繰り返し真似するということが挙げられます。また、字幕をオンにして一文ずつ聞き取る練習をします。初期設定で音声が速すぎると感じる場合は、速度を調節してください。

ポイントは、単語などの小さい単位から、文単位に移行することです。適宜、字幕(スクリプト)を確認しながら、聞き取れるようになるまで繰り返し練習してください。動画全体を連続して聞き取っていくのはハードルが高いですので、仮に3分の動画であってもその中の一部を用いたり、徐々に進めたりするとよいです。

【レベル2】(107~115点)

動画ジャンルは、「キッズ」や「アニメ」、「英語/外国語」に加え、「映画/外国語」や「旅行/ライフ」もおすすめです。難易度は「A1初級」と「A2初級」に設定してください。時間は、「3分以下」を基本としながら、目ぼしい動画が見当たらないときは「3-10分」も試してください。

練習としては、最初は字幕なしで聞いて内容を推測してみてください。次に英語字幕をオンにして再確認してください。再生速度も必要に応じて調節しましょう。

他の練習として、ディクテーションが考えられます。聞こえてきた英語を書きとっていく練習です。動画再生画面の左下の方に「センテンスをリピートする」というボタンがあります。これと速度調節機能を利用して、文単位で何度も聞いて書きとってください。ただ聞くだけよりも、どこが聞き取れていないのかがハッキリわかります。

【レベル3 】(115点以上※成績優秀者について、p.14参照。)

レベル2のジャンルに加えて、「ニュース」や「ビジネス/経済」の中で、背景知識があり、比較的分かりやすそうな動画を選びましょう。

ディクテーション以外に、要約練習がおすすめです。動画を見た後、内容を自分の言葉で、英語で要約する練習を行います。要約は、ライティングまたはスピーキングで行います。まず、内容を聞き取りながら、重要だと思われるキーワードやキーフレーズをメモします(必要に応じて何度か再生してください)。それらをもとに、例えば1/3ほどの分量にまとめるなど自分で設定し、要約します。いきなり英語で要約するのが難しい場合は、日本語を用いてもよいでしょう。可能であれば、要約の内容を誰かに見てもらったり、聞てもらったりすると「伝える」という目的が生まれ、リスニングを行うときの意識も高まると思います。

このように、徐々に高度な内容の動画を理解し、TOEFL Primary®のハイレベル問題やTOEFL Junior®/TOEFL iBT®への準備を進めましょう。

4. おわりに

本稿では、リスニング力向上の方法として、授業の取り組み方と音読などの音声練習を取り上げました。また、具体的なスコア別の練習方法を紹介しました。

TOEFL Primary®はテストとして独立しているわけではありません。普段の授業や家庭学習をしっかりやれば、それがスコアにも反映されます。ただし、授業とTOEFL Primary®のギャップを着実に埋めるには、本稿で紹介したような自主的に行う学習が不可欠です。

効率のよい学習方法、効果の高い練習方法などいろいろと言われますが、どのような方法をとっても、外国語は一朝一夕には身につきません。まずは自分が続けやすい方法を探してほしいと思います。ただ、自分の学習の進捗を知るのに定期テストやTOEFL Primary®などのテストは活用できます。点数だけを見てテスト結果を放置せず、自分なりにテスト結果を分析し、その後の学習に生かしてください。

※自分のスコアを確認したら、「あなたへのアドバイス」を参考にして学習を続けよう。

ETS公認 TOEFL Primary® Step 2 リスニングセクション(115点満点)		
CEFR	スコア	あなたへのアドバイス
B1	115	• 様々なテーマの長い複雑な物語やアカデミックな文章を聞きましょう。 • 会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。 • 物語や情報を聞き、その内容を自分の言葉で話したり書いたりしてみましょう。 • 自分のリスニング力についてより正確に知るため、TOEFL Junior® テストを受験する準備をしましょう。
	114	
	113	
	112	• 様々なテーマの長い複雑な物語やアカデミックな文章を聞きましょう。 • 会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。 • 物語や情報を聞き、その内容を自分の言葉で話したり書いたりしてみましょう。
	111	
	110	
A2	109	• 長い物語やアカデミックな話に出てくる知らない単語や新しい単語を学びましょう。 • 会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。 • 物語や情報を聞き、その内容を自分の言葉で話したり書いたりしてみましょう。
	108	
	107	
A1	106	• 長い物語やアカデミックな話に出てくる知らない単語や新しい単語を学びましょう。 • 会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。 • 物語や情報を聞き、その内容を自分の言葉で話したり書いたりしてみましょう。
	105	
	104	
Below A1	100	• 長い物語やアカデミックな話に出てくる知らない単語や新しい単語を学びましょう。 • 会話のなかで、あまり一般的でない単語や表現を使う練習をしましょう。 • 物語や情報を聞き、その内容を自分の言葉で話したり書いたりしてみましょう。

※TOEFL Primary Step 2 成績優秀者について

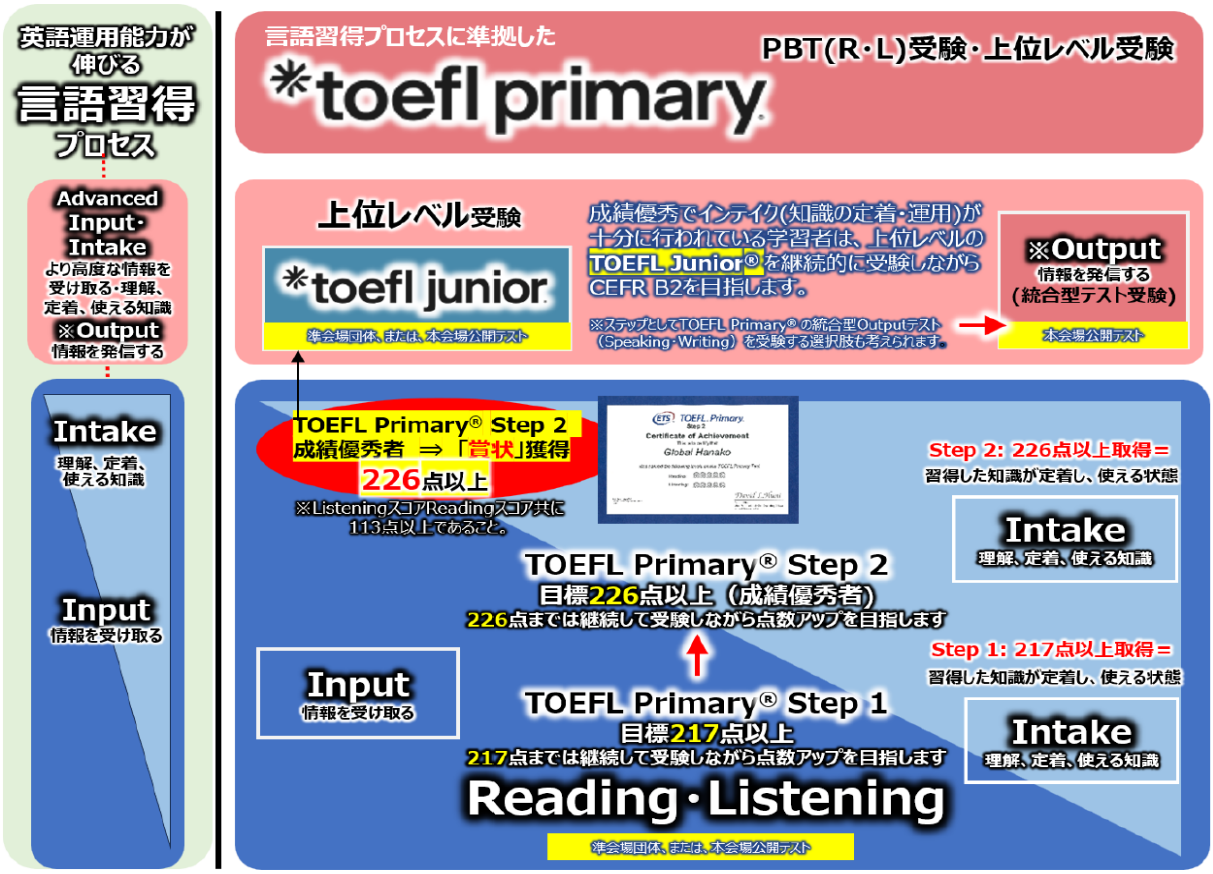
表彰制度

世界の中学生の成績優秀者への賞状授与

Reading 113点以上
Listening113点以上
で合計点226点以上のスコア取得者の成績優秀者に賞状(左図)が授与されます。

インテイク(知識の定着・運用)が十分に行われている学習者は、上位レベルのTOEFL Junior® へのチャレンジをお勧めします。

TOEFL Junior®についてはこちらから
(https://www.toefl-junior-primary.jp/guid/junior/)



関連著作レポート

□『TOEFL Primary®のスコアレポート活用法の検討 ーテストについて知ることを通してー』
□『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーリーディング編』
□『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかースピーキング編』
□『TOEFL Primary®と学校の授業、家庭学習にどう取り組むかーライティング編』

GEET
一般社団法人
国際教育英語試験協会
Global Educational English Testing